

全国遺跡報告総覧 の誕生

奈良文化財研究所
高田祐一

目次

- なぜ奈文研が統合したのか？
- 何が変わったのか？
- 今後の可能性は？

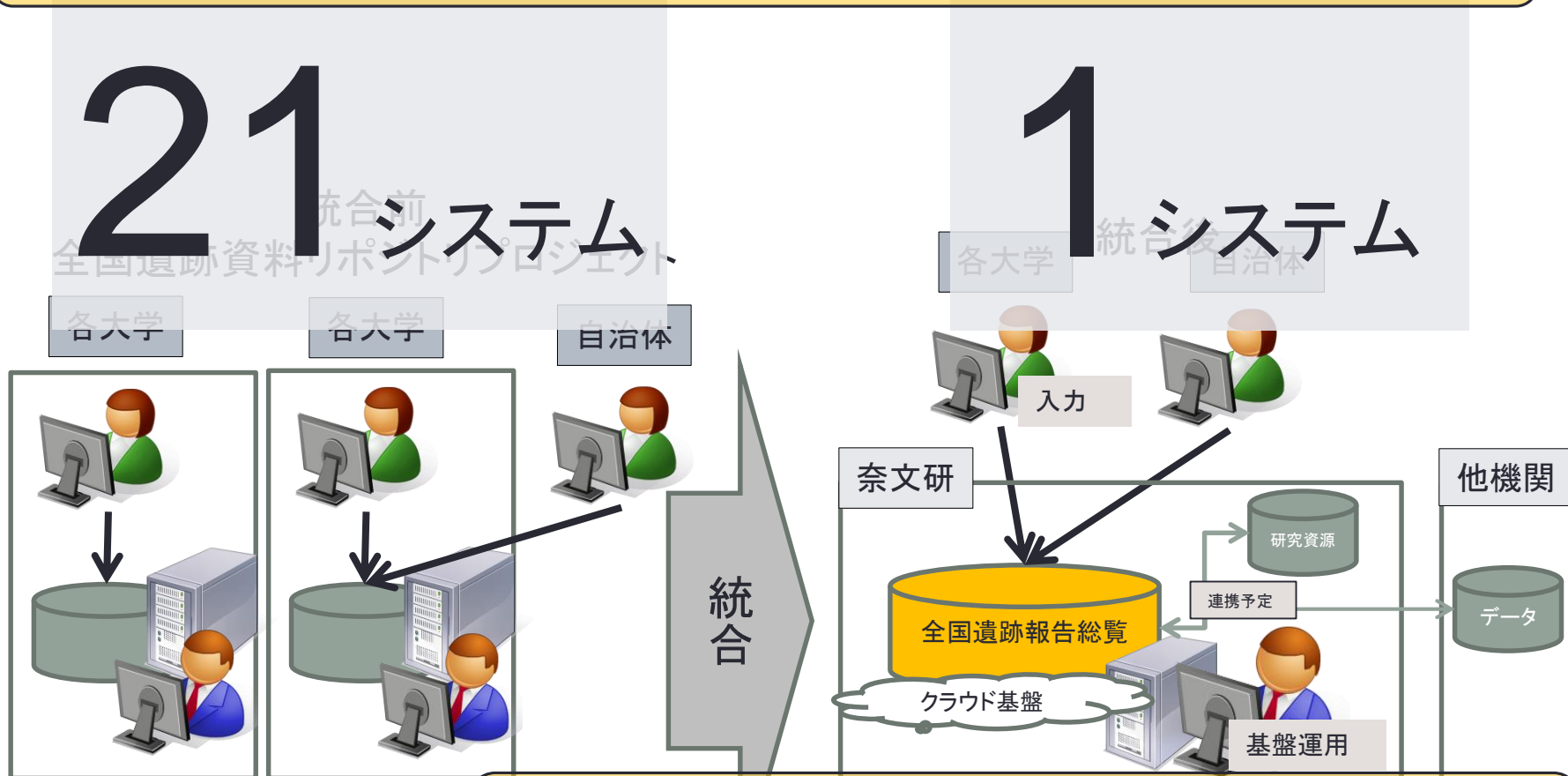
なぜ奈文研で統合したのか？

全国の文化財保護/研究に資する事業

- ・遺跡リポジトリ立ち上げ時よりデータ提供
- ・文化財専門図書館 32万冊
(紙とデジタルの相互補完)
- ・研究系DB群(抄録DB等)
- ・継続性

①何が変わったのか？

システム/データ統合による集中管理



自治体直接登録モデルへの移行方針

②何が変わったのか？

膨大なデータの収録。一括全文検索

・コンテンツ数：15980件 (2016.2/13)

・文字数：**11億文字**
(1,167,280,685 字)

③何が変わったのか？

利便性の向上(検索機能強化)

データ品質の平準化／向上

絞込検索

・発行年

・県域(発行機関)

・編著者名

・報告書種別

いつ？

どこで？

誰が？

どんな？

データクレンジング、名寄せ

①今後の可能性は？

公益的なシステムとして社会還元

- ・インターネットで簡単に閲覧可能
- ・蓄積型の考古学において、効率的、漏れなく類例/前例調査可能
→研究の精緻化
- ・地域おこしや地域学習
- ・成果の社会還元

②今後の可能性は？

大規模災害への備え、万全なデータ保全

- ・菅野智則氏：大規模災害「研究環境復旧への支援」
- ・クラウドプラットフォーム：事業継続
- ・データを東西に保管（災害対策）

大切な情報を守る！！

③今後の可能性は？

システム連携によるデータ価値の向上

- ・国際標準OAI-PMHで公開
- ・ディスカバリーサービスSummonと連携済み



- ・CiniiBooksと2016年3月末までに連携予定。接続実験中

CiniiBooks画面から遺跡総覧にリンク

④今後の可能性は？

(仮称)考古学ビッグ データの可能性

- ・考古学関係用語シソーラス(類語)
統計的自然言語処理の適用
欲しい情報を的確に入手できる
- ・クロスリンガル(多言語化)